

～ 今夏の移動時期の新型コロナウイルス感染拡大防止について ～
患者・組合員のみなさまへ

2020年末からの新型コロナウイルス感染症の第3波、4月以降の第4波に国民は心身ともに疲れているのではないのでしょうか。様々な問題をかかえながらワクチン接種は徐々に進み、発症予防、重症化予防に有効であることがわかってきましたが、ワクチンをしたからマスクをしなくてよい、宴会やカラオケは OK とはなりません。海外での研究データがそれを示しています。

何としても第5波を食い止めなければなりません。無観客とはいえ東京オリンピックが7月23日から開幕しました。三密が避けられずにオリンピック関連のクラスターが発生しないか懸念されます。加えて夏休み、お盆など県をまたいで大きな人の移動が予想されます。また、感染力が強く重症化しやすいと言われているデルタ株が従来株に置き換わりつつあり、7月初旬の時点で鹿児島では新規感染者の70%以上がデルタ株であったと報告されています。

この間の感染事例からは、職場での更衣室・休憩・食事の際のマスクを外した会話や、仕事を離れての飲食が原因となった事例が報告されています。しかし過度に恐れることはありません。これまでやってきたことを徹底すればよいのです。あらためて感染予防の基本(マスク着用、手指消毒、3密を避ける)の徹底を職員には呼び掛けているところです。

当院では患者・組合員のみなさまが安心して受診していただけますよう感染防止に取り組みながら医療・福祉活動をすすめております。入院患者様とご家族が直接面会できませんのでオンライン面会も行っております。

感染防止の観点から、慢性疾患等で当院を定期受診し体調も安定されている方につきましては電話再診(電話による診療)も行っておりますのでご相談下さい。また、経済的な理由で受診ができずにお困りの方には、各種制度の紹介や申請手続きの支援、当院で実施している無料低額診療事業の活用などをご案内しております。詳しくは、ホームページにも掲載しておりますのでご参照ください。お困りごとがございましたら、なんでもご相談ください。

私たちは、鹿児島市南部地域の救急医療を守る医療機関の一つとして引き続き役割を果たし、地域の患者・組合員のみなさまのお気持ちに寄り添いながら、健康づくり・まちづくりに取り組んで参ります。

2021年7月23日

総合病院鹿児島生協病院 院長 樋之口 洋一